

梅雨が明けた途端の猛暑。ヒマワリ・タ立・ヒグラシ、季節は夏本番を迎えました。

梅雨が明けたとはいえ、日本各地では豪雨災害が発生し、特に熱海市の土石流災害は甚大な被害が発生しました。いまだ行方不明の方の捜索が続いており、被災されました皆様には心からのお悔やみとお見舞いを申し上げます。

先日受講した危機管理の研修で学習したことですが、先般の熱海市の災害は新たに以下の課題が明らかになっております。それは「盛り土」との関連性と、行政が出す「避難指示」の判断基準の課題です。積算雨量から「高齢者等避難」は出したが「避難指示」が出ていなかった背景です。新聞報道によるとされていますが“熱海市は避難勧告と避難指示が一本化され避難指示の重みが増し、判断に影響したことがまったくなかったとは言えない”としており、避難指示を出すタイミングについては悩むことになるという印象を受けました。また、この研修で講師が力説されたのは「近年の災害は激甚化しており、行政主導のハード対策・ソフト対策には限界があり、住民主体の防災対策への転換が必要」という話をされました。「自らの命は自らが守る」という意識を持って避難行動をとり、行政はそれを全力で支援する。こうした住民主体の取り組み強化による防災意識の高い社会を構築する必要があるということが重要なポイントであると学んだところです。そういった意味でも8月29日の「総合防災訓練」は実りある訓練にしたいと考えています。

コロナウイルス感染症対策については、岐阜県では現在、8月31日までを期間と定め「夏の感染リスクに十分な警戒を」と題した対策を発出しています。岐阜県は第4波のピーク時からみると、全ての数値がステージ2まで低下してきてはいますが、夏休み、お盆の帰省の人流、オリンピック関係の人流、デルタ株の拡大など不安な要素が多くあります。首都圏は第5波に突入したと言われていることや、昨年も8月の人流の増加により感染者数が増えた経験からも油断は禁物です。ワクチン接種が進み安心したい気持ちは良くわかりますが、村民の皆様の命と安全な暮らしを守るため引き続き十分な警戒をお願いいたします。

次は明るい話題です。8月14日には商工会青年部が通常の夏祭りの縮小版として村民の皆様に元気を与えたいと花火大会を計画してくれています。

また、8月28日には映画上映会を開催することが決まっています。今年は本村出身・今井友樹監督のドキュメンタリー映画「明日をへぐる」を全国の一般公開に先駆けて上映、もう一本は井上真央主演の「大コメ騒動」の豪華2本立てで開催します。更に歌舞伎保存会では9月19日に第45回東白川村郷土歌舞伎公演を計画していただいています。外題は小中学生による「弥次喜多珍道中」と歌舞伎保存会が誇る名役者連による「源平布引滝(げんぺいぬのびきのたき) 義賢最後(よしたかさいご)」の上演が予定されています。どの行事も感染防止対策を徹底して準備していただいていますのでお楽しみに。

東白川村はワクチン接種が計画どおりに進めば、9月中には12歳以上の希望する方への接種も終え、希望された全ての方への接種が完了する予定です。災害にもコロナにも負けない安心安全な村でありたい。皆様と同じ想いで、この夏を乗り切りたいと考えています。

令和3年8月1日

東白川村長 今井俊郎